

北日本少年少女レスリング選手権 町内の小・中学生が大活躍

第30回北日本少年少女レスリング選手権大会（4月27日、28日・八戸市体育館）において、町内小学生が大活躍しました。同大会では、倉本大輝くん（山田南小4年、3・4年生の部36㎏級）と横田響くん（同小6年、5・6年生の部51㎏級）が優勝、佐々流斗くん（同小2年、1・2年生の部24㎏級）と川村翔英くん（同小3年、3・4年生の部26㎏級）、阿部涼太くん（山田中3年、中学生の部59㎏級）が第3位の快挙。横田くんと阿部くんは「全国大会では3位以上を目指します」と、早速次の目標を見据えていました。なお全国大会は、小学生が7月に札幌市で、中学生は6月に水戸市において行われます。



山田中駅伝部男子が準優勝 盛岡市内一周継走で好成績

4月20日に行われた盛岡市内一周継走大会において、山田中駅伝部男子が準優勝に輝きました。昨年、一昨年の優勝に続いて堂々の成績を残した同部は、練習場所であった町民グラウンドに仮設住宅が建ち、限られた場所を無駄にしないよう有効に活用。これが今回の結果に結びつきました。主将の梶山拓郎くん（山田中3年）は「昨年、一昨年の優勝に続いての3連覇がかかっていただけに大変悔しい。周りの選手がとても強かったので、次は優勝を狙えるように本番のつもりで毎日の練習に励み、力をつけていきたい」と今後に向けて意気込んでいました。

船越家族旅行村さくらまつり開催 大勢の家族連れでにぎわう

4月19日から29日にかけて船越家族旅行村において「さくらまつり」が行われました。桜の名所として人気の高い船越家族旅行村をたくさんの人に楽しんでもらおうと、さくらまつり実行委員会（藤原長一委員長）が開催したものです。28日には桜を見る人を楽しませようと、山田吹奏楽団やフナダバンドによる演奏のほか、キッズダンスショー、町の団体と群馬県足利市の団体が共演する八木節など多彩なステージイベントが行われ、町内外から約1,000人が訪れました。特にマブリッドキバショーでは、山田町を守るマブリッドキバと敵役の鬼の戦いに子どもたちも参加。山田町の未来をかけたジャンケン勝負で勝利しお菓子を手に入れるなど、元気な子どもたちの姿に会場は大いに盛り上がりしました。



まつりの期間中、家族旅行村に咲き乱れるきれいな桜の花（上写真）／キッズダンスでは、子どもたちが日ごろの練習の成果をいかに発揮し、会場を沸かせました。





今月の題字

芳賀 みずきちゃん
(荒川小2年)

町のわだい

元気に泳ぎ出す稚魚に声援 織笠・轟木小児童が放流会

4月30日と5月1日、織笠川において「サケ稚魚放流会」が行われ、織笠小学校の児童8人と轟木小学校の児童7人がそれぞれ参加しました。同放流会は、子どもたちにサケ資源の大切さや川をきれいにする心を養ってもらうことを目的としています。佐藤町長は「サケは川のおいさを感じて帰ってくるといいます。皆さん川をきれいにし、今後も大事にしてください」とあいさつ。子どもたちはサケをモチーフにした歌を合唱し「元気に帰ってきてね」と声援を送っていました。



大漁旗に彩られた地域の守り神 水天宮例大祭執り行われる

祭りの始まりを告げる色鮮やかな大漁旗——。水天宮（中央町）の例大祭が、5月17日に行われました。毎年、旧暦の4月7日、8日に行われる同祭りは、境内を囲むフェンスに飾り付けられたたくさんの大漁旗が特徴。宵宮となる16日は、雨の中粛々と神事が執り行われました。神社施設の管理をしている水天宮神興会（みのる）の佐藤 實会長は「漁業者が多かった昔は“海的神様”として信仰されにぎわっていたが、その漁業者も減りさらに震災が追い打ちをかけた。昔のようににぎわいを取り戻すのは難しいかもしれないが、今後は“地域の神様”としてみんなで協力し守っていききたい」と今後の抱負を話しました。

災害時に歯科医療救護活動を実施 宮古歯科医師会と協定締結

5月14日、町と宮古歯科医師会（倉田英生^{ひでお}会長）との間で「災害時の歯科医療救護活動に関する協定」が締結されました。これは、災害発生時に町からの要請に基づいて、避難所などで歯科医療を必要とする傷病者への応急処置や医療機関への移送、救護所の設置などを実施。さらに遺体の本人確認・検案などへの協力を行うというものです。調印式で倉田会長は「今回の震災では被害が大きく歯科医療がままならなかった。このような災害時のバックアップ体制づくりは町民のためにも大変有意義なもの」とあいさつ。これにより災害時には、歯科医療必要者に心強い救護活動が行われることとなります。

